

社会福祉法人 上越老人福祉協会

平成26年度 事業実施状況報告

役員会説明資料（概要版）

## 目 次

1. 全体評価	P 1
2. 法人本部（各管理部会）	P 4
(1) 事業・情報管理部会	
(2) 組織管理部会	
(3) 財務管理部会	
3. 各事業の報告（各種委託事業含む）	
(1) いなほ園グループ 事業活動	P 6
(2) 新光園グループ	P 7
(3) 高田の郷グループ	P 8
(4) JOCO（石田福祉記念館）	P 10
(5) 千寿園	P 11
(6) ケアハウス上越	
(7) 各種委託事業	P 12
①新潟県（新潟市）認知症介護実践者研修	
②上越老人福祉協会喀痰吸引研修事業	
添付（資料集）	

## 1. 全体評価（法人事業経営の概要）

### （1）収支状況

大規模短期入所施設 6 施設（定員 228 名）、サービス付き高齢者住宅 9 施設（定員 318 名）などが短期入所に影響し 80%から 90%の利用率で競合している。法人全体で利用率確保対策会議を定期開催し対応したが、在宅サービスを中心に利用率が改善せず、収支状況に影響した。

単位：千円

当期資金収支差額の状況			
会計名	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	比較増減
本 部	△48,202	△42,268	5,934
いなほ園拠点区分	66,168	39,977	△26,191
新光園拠点区分	8,654	18,836	10,182
高田の郷拠点区分	33,242	32,503	739
その他の拠点区分	1,839	△3,136	△4,971
法人全体	61,701	45,912	△15,789

### （2）人材確保及び人材育成の状況

平成 26 年 4 月新採用職員は介護職員 2 名及び調理員 2 名。介護福祉士資格取得により臨時職員から正職員への採用は 21 名である。

初任者研修、中堅職員研修、危機管理研修、認知症研修など法人研修計画実施による人材育成に努めた。また、NPO法人マミーズネット講師による子育て支援講座（94名）、直江津海岸清掃（59名）、高田公園清掃（46名）、外部講師によるメンタルヘルス研修（69名）、新たな取り組みとして上越まつり民謡流しには52名が参加した。

上越保健医療福祉専門学校就職ガイダンスをはじめ、各求人ガイダンス、市内高等学校、専門学校、大学等への訪問など採用活動を実施した。結果、平成 27 年 4 月 1 日採用の新卒介護職員は 15 名であった。

法人内スキルアップ研修の概要		
月日	研修項目	概要
7月8～9日	初任者研修(2回目)	福祉職員としての基本姿勢 9名
7月10・22日	中堅職員研修Ⅰ	信頼関係を作るコミュニケーション 98名
9月4・25日	中堅職員研修Ⅱ	中堅職員の役割と責任 89名
10月14・28日	中堅職員研修Ⅲ	中堅職員へ期待すること 59名
12月8日	監督職研修	積極的傾聴を学ぶ 35名
3月16日	管理者研修	米岡の歴史を学ぶ 6名
3月26～28日	初任者研修(2回目)	福祉職員としての基本姿勢 30名
12月/1月/3月	認知症研修	認知症を様々な側面から考える 149名
10月30日	全体研修	メンタルヘルス研修 69名
12月10日	全体研修	自動車事故削減研修

### (3) 新たな事業展開

#### 1) 米岡の郷整備事業関係

平成26年

- 4月15日 弥彦村 高齢者総合施設 はな広場 視察研修
- 4月16日 地域介護・福祉空間整備等交付金内示
- 4月22日 十日町市 複合型介護施設 三好園四ツ宮 視察研修
- 5月28日 開発許可及び農地転用許可
- 7月 4日 五泉市 特別養護老人ホーム<sup>きぬ</sup>の郷 視察研修
- 7月18日 建設等工事指名競争入札 株式会社福田組に決定
- 7月23日 株式会社福田組と工事請負契約締結(工事価格 645,000,000円)
- 7月28日 地鎮祭
- 8月 1日 工事着手
- 8月 2日 工事地元説明会
- 9月10日 利用者募集開始
- 11月10日 設備整備に係る指名競争入札

平成27年

- 3月16日 開発検査
- 3月19日 竣工検査、消防検査
- 3月24日 新潟県 老人福祉法に係る現地確認
- 3月25日 上越市 介護保険法に係る現地確認
- 3月28日 建物引き渡し
- 3月29日 内覧会

- 3月31日 竣工式
- 2) 喀痰吸引等研修 会場：高揚荘 定員30名
- 8月1日～14日 講義
- 8月21日 筆記試験
- 9月21日～27日 演習
- 11月5日～11月18日 講義
- 11月25日 筆記試験
- 12月22日～25日 演習

### 3) ケアプランいなほ園移転

5月21日の役員会承認後、移動準備、居宅及びサービス提供事業慮への通知など移転手続きを進め10月1日に移転が完了し、高田の郷にて事業開始した。

### 4) 介護システムの更新並びに事務業務の見直し

いなほ園、新光園、高田の郷を拠点としてそれぞれ管理されていたソフトの保守期間終了を受けて、法人一つのシステム管理としていなほ園に専用サーバーを6月に導入した。使用操作説明、使用端末の整備などの準備期間を経て、10月1日より新システム使用を開始した。今後、法人情報一括管理を目標に事業所ごとの事務業務内容の見直し等実施した。

### (4) サービスの質向上への取り組み

全国老人福祉施設協議会及び新潟県老人福祉施設協議会が主催する「介護力向上講習会」にいなほ園並びに新光園の介護職員を派遣し、利用者の自立支援実践に取り組んだ。

また、特養いなほ園及び新光園通所新潟県福祉サービス第三者評価を受審した。

### (5) 「和・道」医療福祉グループとの連携

上越地域の保健・医療・福祉の向上発展に寄与する「和・道」医療福祉グループの目的を理解達成するため、越後ひまわり祭、越後高田はさ木福祉農道マラソン大会等の各種事業へ積極参加した。

### (6) その他

全国社会福祉法人経営者協議会が実施している被災地への職員応援派遣として、7月25日から8月9日まで岩手県大船渡市社会福祉法人三陸福祉会「さんりくの園デイサービスセンター」へ高田の郷介護職員1名を派遣した。

## 2. 法人本部

### (1) 事業・情報管理部会

#### ①組織的な利用者確保

利用率向上の取組として、管理者と担当者（生活相談員等）合同の利用率検討会議（9月4日）（12月9日）を2回開催した。各事業所の課題だけでなく、介護事業者の新設による煽りなどの課題も明らかになり、その上で事業所ごとに対策を立て取組をおこなった。しかし、法人として激化する競争に対する対策を具体的にすることができず、低迷した事業所があった。

#### ②危機管理対策の推進

7月16日、管理者及び事業管理者等に対して緊急災害時の図上訓練  
11月25日、中越沖地震被災施設の施設長による体験談（講演会）を開催した。万が一の際の対応をシュミレーションすることで、平常時の危機管理能力の向上につながった。

#### ③情報発信の促進

法人ホームページを通じて、認知症をテーマにした情報発信をおこなった。専門職による専門情報の発信により、一般市民等の認知症に関する啓発に努めた。

#### ④新たな事業展開

上越老人福祉協会喀痰吸引登録研修を2回実施する。周辺介護施設の介護職員60名が受講し、全過程を終了した。法人職員については介護職員計10名が受講した。

4月1日、米岡の郷を開設した。事前に行った内覧会には周辺の住民を始め、関係者が300名程来場され期待の高さが伺えた。

### (2) 組織管理部会

#### ①職員育成の強化

全職員それぞれを対象にし、法人の理念と事業計画に則した研修会を実施した。期待される職員像や、それぞれのステージで求められる役割を明確にした。

地域貢献活動では、毎年恒例となる夏の海岸清掃、秋の高田公園清掃を実施した。職員及び家族が参加できるよう時間帯等に配慮し、職員の団結力を培った。

職種別連絡会は、それぞれの活動について相互に確認し合い、共通の課題について整理した。

## ②健康管理、労働環境の整備

職員健診後の必要受診（要受診・要精検者）を徹底し、事業所毎の傾向と今後の対策を明確にした。また、特定健診・特定保健指導及び付加健診の推奨に努めた。

メンタルヘルス不調者の早期発見・発生予防について、毎月のチェックシートを活用し、意見交換を行った。細かい部分に目が届くようになり、予防についても一定の効果を得た。

外部講師による研修会は、2年連続で同講師によるものとなった。ワーク中心の参加型の研修会で、多くの参加者があり、内容も好評であった。

## ③その他

法人本部機能の強化を目指し、組織改編の検討を行った。そのことに先立ち、法人サーバを立ち上げ、情報の集約等が可能なインフラ整備を実施した。

新規事業開始に伴い、多数の職員確保が必要であった。「和・道」医療福祉グループの組織的強みを活用し人材確保が図れるよう、学生ニーズ（仕事・職場に関する条件など）についてグループ内専門学校と意見交換を行った。また県外の専門学校等へも積極的に求人活動を行った。

## （3）財務管理部会

### ①新会計基準の定着

27年度からの完全実施に向けて、会計ソフトの機種選定を行った。運用について、スケジュール化をしながら業務手順の確認を検討した。

### ②月次報告

月次決算による経営状況の分析について、収益減の要因を明らかにした上で効果的な対策を示すことができなかった。対策の明確化と実施評価及び協議について確認の場と迅速性を欠いた。

### ③新規事業の資金計画

米岡の郷の建設資金については、予想以上の経費執行が必要となり資金計画の見直し及び契約変更が生じた。

直江津地区に求めた新規事業の土地取得について、自己資金の取崩で対応した。今後の建設費用等の捻出については、法人の財務状況を詳細に把握した上の資金計画が求められる。

### 3. 各事業報告

#### (1) いなほ園グループ

##### ①特別養護老人ホームいなほ園

- ・新入所の受入準備期間を短縮し空床の削減を図るため、ユニット検討会議・入所検討会議を随時から定期開催に変更した。また、入院中の利用者の状態把握を頻回に行い、退院調整期間を短縮した事で7月から12月までの6カ月の入所率は平均99%を維持し、年平均では98.1%となり、目標値を上回る。サービス活動収益計543,751千円（前年比986千円増）
- ・介護保険制度の理念である「自立支援」実現のため全国老人福祉施設協議会が取り組む介護力向上講座並びに新潟分校に介護職員を一名ずつ派遣した。新光園と定期的に情報交換を行って徐々に成果を上げている。
- ・平成22年度に続き2回目となる、福祉サービス第三者評価を新潟県介護福祉士会より受審。アンケート方式、聞き取り方式により利用者総数135名のうち90名の回答、職員77名のうち77名より回答ある。今後、受審結果を活かした業務改善、組織体制の整備等に取り組んでいく。

##### ②いなほ園在宅複合施設

- ・短期入所は、利用率84.4%と前年比-4.8%であった。新規利用者（40名）と積極的に受入をしたが、施設入所：9名、入院：2名、死亡：4名、不定期利用：10名と半数以上が定期利用に繋がらなかった。サービス活動収益計71,127千円（前年比5,348千円減）
- ・通所介護は、一般型の利用率が82.5%と前年比-3.3%であった。新規利用の依頼は継続してあるものの、入院や他施設利用によるキャンセルの穴埋めに追い付かず利用率は低迷した。認知症型では長期入院や施設入所となる方がおり、利用者総数が減少している。サービス活動収益計102,806千円（前年比7,532千円減）

##### ③ケアハウスみのりの家

- ・年間入退所1名、利用率に変動なし。法人3施設合同のチラシを作成し定期的な情報発信に努めた。外部サービス利用を継続して施設利用ができるよう支援した。サービス活動収益計30,809千円（前年比235千円減）

##### ④グループホーム（なかよし寿の家、宝寿の家）

- ・宝寿の家 5名の利用者が入れ替わり、内4名が、生活が困難となり退所となる。11月から体調不良で入院による利用率低下があり、年平均96.6%であった。サービス活動収益計35,964千円（前年比654千円減）
- ・なかよし寿の家 4、5月に入退所があったが、その後は安定し年平均で99.2%の利用率であった。サービス活動収益計74,326千円（前年比1,574千円増）

## (2) 新光園グループ

### ①特別養護老人ホーム新光園

- ・利用率 98.6%と前年対比で 3.2%改善、収入についても 8,900 千円増収となった。要因は空床期間の短縮（前年 14 日→7 日）とそれに伴う入所業務の変更、役割の再整理による効果である。支出については、オムツ業者・種類の見直しにより前年対比 1,200 千円削減、高熱水費 2,200 千円削減（前年は漏水）により全体で前年比 12,000 千円程度収支が改善した。
- ・組織、命令系統の見直しにより適切ナリスク管理と連携が取れるようになった。それにより事故発生時の速やかな対応や苦情等に速やかに対処でき、信頼を得ることができた。また監督職員の勤務形態の変更により職種ごとの纏まりが強くなり施設全体の組織強化に繋がった。
- ・（県老協）介護力向上研修会で得たスキルをサービスに取り入れ、利用者の個別支援に活かした。大きな改善が見られた利用者は数名だが、施設全体のケアの質を検討する機会となった。

### ②ショートステイ新光園

利用率 84.7%と前年対比 3.6%改善した。それに伴い収入は 1,200 千円増収となった。要因は年度当初から実施した受入基準の緩和により新規の利用者が増加したこと、利用受付を 365 日体制にしたことが挙げられる。その他、併設の通所介護と一体になって、居宅との情報共有や連携強化を計画的に取り組んだことも成果に繋がった。

### ③デイサービスセンター新光園

利用率 78.6%と前年対比 1.5%改善した。それに伴い収入は 4,700 千円増収となった。上期は曜日（日曜日）の利用率が 50%程度に留まっていたため事業所内の検討チームを設定し特定曜日限定のサービスを実施し利用者の増加に繋がった。下期にサービス改善のために第三者評価の受審をした。今後は特設の対策チームにより改善に取り組んでいく。

### ④新光園地域包括支援センター

実態把握件数が 600 件を超え、前年度の約 3 倍の実施件数となり前年比 1,130 千円の増収となった。併せて予防給付についても月平均 190 件弱を管理し、目標値を大きく上回る。その他、地域ケア会議、個別地域ケア会議等を予定通り開催し、市民及び関係機関の期待に応える事が出来た。

### ⑤グループホーム百寿の家

利用率 98.6%と前年対比 1.2%改善した。それに伴い収入は 1,300 千円増収となった。運営推進会議を活用し防災協力や地域行事など連携を強めることができた。地域の小・中学校の訪問活動も活発に実施されている。

### (3) 高田の郷グループ事業報告

#### ①介護老人保健施設高田の郷（入所・短期入所）

- ・利用率は昨年度（87.1%）とほぼ同様の85.3%と、目標の94%を大きく下回った。平成25年度から取り組んでいる在宅復帰支援により、在宅復帰の件数が増加したが、退所後に発生する一定期間の空床に対し、利用ニーズに合致する申し込みが少なく、また、短期入所ベットとして空床対策を行うなど対応を試みたが、利用率の向上には繋がらなかった。

サービス活動収益計 382,961 千円（前年比 6,877 千円減）

- ・在宅生活継続のための老健を利用希望する利用者や家族、また居宅ケアマネからの相談には積極的に対応した。短期入所のリピーターも増えてきており、短期入所枠を拡大して空床を活用し、また協力病院を中心とした担当者間の情報共有の場を設け相互利用する動きも進めた。
- ・在宅復帰支援を進めることにより、長年の課題となっていた利用の長期化による重度化や、高い医療依存への対応が減少した。入院による退所は35件（前年度42件）と減少し、入院期間も長期とならずに、再度の入所受け入れが実現でき、そのことによる空床の発生を減少できた。
- ・看取り期の支援は、6名の方を施設で対応できる限界まで利用いただいた後に、終末期に医療機関へ繋げ、うまく連携を図ることができた。

#### ②通所リハビリテーション

- ・利用率は78.4%と目標の80%に届かなかった。利用者本人の入所や入院により長期休止が多かったことから、休止者への今後の意向調査を実施し、利用枠調整を行ったが、新規利用者の拡大には直結しなかった。

サービス活動収益計 95,091 千円（前年比 4,250 千円減）

- ・通所介護計画書作成のマニュアル整備や、多職種等の連携強化等、在宅生活の支援のための職員資質向上に取り組んだ。

#### ③グループホーム敬寿

- ・入所率99.6%であったが、通所は39.5%と新規利用者獲得に苦戦した。
- ・サービス活動収益計 40,546 千円（前年比 1,109 千円減）
- ・外部評価の結果を受け、利用者の個別ケアへの取組みを進めてきた。
- ・近隣町内会とは防災訓練や行事への参加等で、関係づくりを継続して実行している。

#### ④小規模多機能型居宅介護 楽・らく寿の里

- ・利用率87.9%と目標を割り込んだ。入所や居宅サービスへの移行による登録人数の減少や、職員欠員と設備の能力もあり、新規利用者の確保が進まなかった。

サービス活動収益計 44,084 千円（前年比 4,197 千円減）

- ・近隣町内会とは常日頃から良好な関係づくりを進めており、施設運営に多大な協力・支援を受けている。

④高田の郷地域包括支援センター

- ・地域ケア会議を3回開催し、地域関係者との顔の見えるネットワークを築いてきた。また、地域住民向け認知症サポーター養成講座を3回開催した。
- ・地域の一人暮らし高齢者等の生活状況実態把握は月平均24件と目標のおおよそ5割で、予防給付は月平均184件であった。

⑤ケアプランいなほ園

- ・利用率は96.3%であった。介護給付延べ件数1,825件、予防給付延べ件数227件の稼働である。
- ・市や包括支援センター主催の会議や研修に積極的に参加した。

#### (4) JOCO (石田記念福祉館)

##### ①デイサービス本町

- ・年間利用率は69.5%で目標値を下回った(前年度比22.4%増)。居宅介護支援事業所障がい者施設、地域へのアプローチを継続的に行った結果、認知度が高まり、新規利用の依頼も増加した。既利用者へのサービスが信頼感を得、利用回数が増えると共に登録人数もほぼ目標値となったが、急なキャンセルの穴埋めが行えず、利用率は低迷した。サービス活動収益計32,971千円(前年比11,309千円増)
- ・利用者の人数が安定し、定量的なサービスについてマニュアル化が行えた。また、街中という立地を有効に活用し、外出なども含めて多くの楽しみの会を提供することができた。
- ・入浴目的の短時間利用者や他事業所で対応不可能な認知症を有する利用者、視覚障がい者へのサービス提供に注力するため、ニーズに沿ったきめ細やかな対応を徹底し、職員のスキルアップを図った。

##### ②ショートステイ本町

- ・年間利用率は89.0%(前年度比0.5%増)で概ね目標値に近い数値となった。併設事業所というメリットを活かし、デイサービス利用者がショートステイの利用も開始となるケースが増え、利用の定着も進んだ。その結果、併設デイサービスの利用率に影響を与えることとなった。また、冬期利用の問い合わせが多く寄せられるが、長期利用の希望が多く、結果として利用につながらなかったことも利用率に影響している。サービス活動収益計38,681千円(前年比2,559千円増)
- ・高齢者だけでなく、若年の認知症を有する利用者、障がい者の受け入れも積極的に行った。狭い空間で起きる接触事故や予測される利用者間トラブルに未然に対応し大きな事故・苦情は見受けられなかった。
- ・併設するつくしワークショップスペースの利用者と係わる場面が日常的に発生し、高齢者と障がい者が共生する事業所として意識付けができた。

#### (5) 軽費老人ホーム千寿園

- ・ 精神障害者や低所得者など困難ケースの受け入れを積極的に行い、年間平均利用率は **96.8%** で目標を上回った。前年比 **4.0%** 改善した。
- ・ 待機者管理を適正に行い、職員全体で空床を埋める意識が高まった。退居後の受け入れ時間が短縮され、利用率の向上につながった。
- ・ 収入について、利用率の改善に伴い、利用料が約 **3,000** 千円改善した。委託料約 **1,400** 千円分の増額等もあり、約 **5,469** 千円の増収となった。しかし委託料の増額分は限定的な措置であるため、注意が必要となる。
- ・ 支出について、人件費で約 **1,904** 千円増も、事業・事務費で大幅な節約に努め、総計で約 **307** 千円に留めた。結果、収支差額は約 **5,162** 千円の改善となった。
- ・ 日常の健康管理について、看護師と介護職員が緊密な連携を図り、日々の継続性に反映させる状態把握を徹底した。その結果を速やかな受診や適切な助言などの対応につなげることができた。
- ・ 冬季の感染症流行期には施設内消毒を徹底した。感染症の対応には課題の残る部分も見られた。
- ・ 各種レクリエーション活動や会食行事などの施設行事は計画通りに実施した。職員と一体感を保ちながら、入居者個々のニーズに応えることができた
- ・ 広報活動は予定通り年間 **3** 回実施できた。

#### (6) ケアハウス上越

- ・ 安定的・持続的な事業経営については、年間通して退去 **6** 名、入居 **6** 名、平均利用率は **99.0%** と目標値 (**98.5%**) を上回った。入居希望者のニーズに合わせた住まいの選択が出来るように、わかりやすく情報を整理・記載した合同のパンフレットを作成した。それを活用することで問合せや申し込みが増加した。今後も広報活動に力を入れたい。サービス活動収益計 **54,138** 千円 (前年比 **352** 千円増)
- ・ 高品質なサービス提供については、生活の安心と継続のために、新光園の機能や専門サービスの知識を得て、情報提供や様々な活動支援を行った。特に感染症発生時等は根拠のある対応を取ることが出来た。
- ・ 生きがいや楽しみのある生活支援として、町内会子供会との交流や地域の催し物への参加支援を積極的に行った。施設内でも自主的に活動できるような機会や役割を設け、張り合いとなるよう取り組みを実施した。
- ・ 人材育成については職域にとどまらず、事業所内における必要なサービスについて役割分担をして責任をもって取り組むことで資質向上に繋がった。研修会等も積極的に参加する姿勢も生まれ意欲も高まった。

(7) 各種委託事業

1. 新潟県（新潟市）認知症介護実務者研修

研修名称	第1回 実践者研修	第2回 実践者研修	新潟県小規模多 機能型計画作成 研修	管理者研修
研修月日	7月17日 ～9月12日	9月25日 ～11月26日	10月16日 ～10月17日	12月4日 ～12月5日
受講者数	55名	51名	29名	51名

2. （新潟市）認知症介護実務者研修

研修名称	新潟市小規模多機能型計画作成研修
研修月日	平成27年2月24日 ～2月25日
受講者数	20名

3. 上越老人福祉協会喀痰吸引研修（基本研修）

		第1回目 日時	第2回目 日時
講 義	1日目	8月 1日(金) 9:30～16:40	11月 5日(水) 9:30～16:40
	2日目	8月 4日(月) 9:30～18:00	11月 6日(木) 9:30～18:00
	3日目	8月 6日(水) 9:30～16:50	11月 7日(金) 9:30～16:50
	4日目	8月 7日(木) 9:30～16:20	11月11日(火) 9:30～16:20
	5日目	8月11日(月) 9:30～18:00	11月12日(水) 9:30～18:00
	6日目	8月12日(火) 9:30～17:20	11月13日(木) 9:30～17:20
	7日目	8月13日(水) 9:30～17:20	11月17日(月) 9:30～17:20
	8日目	8月14日(木) 9:30～16:50	11月18日(火) 9:30～16:50
筆記試験		8月21日(木) 9:30～11:30	11月25日(火) 9:30～11:30
		① 9月21日(日) ② 9月23日(火・祝) ③ 9月27日(土) いずれも 9:30～17:00	① 12月22日(月) ② 12月24日(水) ③ 12月25日(木) いずれも 9:30～11:30
修了者数		30名	30名